第1回第十期中海自然再生協議会議事録

日時：令和7年7月5日 13:30～16:00

場所：認定NPO法人自然再生センター・フリースペース（対面とZoomのハイブリッド形式）

参加人数：25名/ zoom 11名

開会挨拶

（國井）

第九期中海自然再生協議会の会長を務めておりました國井です。本日選任します次会長の決定まで、司会をさせていただきます。

五月に送信した開催案内をご覧ください。

「第一回 第十期中海自然再生協議会」案内前書き読み上げ（文末資料1参照）

いつもは、最初に話題提供を受けてから、協議へ移るのですが、今日は、先に新委員の紹介や会長選出を行いその後、話題提供をしていただく予定です。

最初に新委員からご挨拶いただきます。対面の方からお願いいたします。

（5名の新任の公募委員と2団体が挨拶）

（國井）

以上が今日出席の新しい委員の方となります。いずれ委員の名簿はホームページでご紹介いたします。

（國井）

続いて、再生協議会の会長と会長代理について協議いたします。

この協議会は、6期から会長は他薦書、自薦書をもって会長の立候補制としていきます。六月末を期日として会長の他選・自薦をお願いしていましたが、残念ながら自薦書・他薦書は提出されませんでした。そこで急遽、私が今朝、提出いたしましたので、審議のほどよろしくお願い致します。

（國井）

[自薦書（資料2）読み上げ]

自薦されている國井秀伸氏でよいか、お尋ねいたします。

[拍手により承認。会場・Zoomともに異議なし]

（國井）

会長代理については、自薦書・他薦書を求めています。今までは、会長の推薦を、出席委員の承認をもっておこなっています。國井と同じく六期から会長代理をお願いしている米子水鳥公園館長の神谷要さんを会長代理としてよろしいでしょうか。

[拍手により承認。会場・Zoomともに異議なし]

（國井）

それでは、会長代理を神谷さんをお願いしたいと思います。

(國井)

それでは、話題提供に移ります。島根大学エスチュアリー研究センター長 矢島啓先生より、協議会の意見交換についての話題提供があります。よろしくお願いいたします。

(矢島)

矢島です。「ともに学び、ともに進める中海再生」ということでお話いたします。前回からの話ですが、いろいろな立場の方(行政・地域・専門家)が入っているこの協議会でお互いの共通認識をはかるために勉強会したらというお話をしました。今まで自然再生協議会では、かつての中海の自然環境や資源循環を再構築することを目標に、5つを活動の柱として事業を進めておられます。実際、今まで自然再生協議会では、最初は4つの事業計画があり、そのうち2つの事業(窪地と海藻利用)は、15年たった今も続いています。

協議会の法的根拠となっている自然再生推進法にも大きな基本方針の変更がありました。

- ・「劣化した生態系の再生」への対応
- ・国際的な潮流や国内の動向を踏まえた内容の強化・更新
- ・30by30・OECM（自然共生サイト）と自然再生事業の考え方の整理
- ・自然再生事業の実施における課題等を踏まえた対応

この中には、「定量的に目標を設定したこと」が含まれています。事業によって破壊した自然に対して復元する自然を定量的に測り大きくすることが求められます。

他にも、地域住民や地域が実施する小さな自然再生および自然再生に公共事業など取り組みを促進が含まれています。

これから行おうとしている勉強会の位置づけですが、

- ・専門家と知識の共有
- ・立場を超えた意見交換
- ・実施計画と現場との意見

を目標にしています。

今回、勉強会を始めるのは大変タイミングが良く、第十期の始まりで一つは新しい委員が協議会に入られたタイミングであること。中海自然再生全体構想の改訂のタイミングであること。

国や県の動きへの連携を高めるため国や県の方に勉強会での事業の報告を希望します。

勉強会のテーマ例としては、以下のようなものが考えられます。

- ・浚渫埋め戻しのモニタリング
- ・生態系の回復
- ・地域と自然再生のつながり
- ・気候変動

最後に宣伝ですが、島根大学汽水域研究センターでは、令和7年11月15日13:30から16:30に安来市の和鋼博物館でシンポジウムを行います。ぜひ、おいでく

ださい。

勉強会では、断片的な話だけでなく、みんなが同じ目標を持ち、共通言語を持つことが必要です。そのために、情報共有により信頼関係を構築していきましょう。

(國井)

矢島先生ありがとうございます。講演の中で関連の情報を共有していただきたいと思いますので引き続き矢島先生に司会をお願いいたします。

(矢島)

分かりました。ということで各団体から情報共有していただけますか。

(真庭(出雲河川事務所))

出雲河川事務所ではこれまで中海でくぼ地に覆砂したり、浅瀬を作ったりしてきました。そうした中で、中海の水質保全計画で基準となっている透明度が改善してきていると感じています。先般米子湾で行われた中海ウォーター・スイムでは 20 年前の参加者より、水質が以前よりきれいになっているとコメントをもらっていました。我々としては、これからも、水質や元あった自然を回復して行きたと思っています。また、地域の方の希望とマッチングした形で進めて行くことも大切と思っています。

(矢島)

多くの方はご存じと思いますが、島根県と鳥取県では中海会議という会議を実施しています。この会議で、これからどう自然を評価していくのか。その結果、中海の水質にどう影響が与えられるのか見ていかないといけないと思っています。

(柏木(中海漁協))

私たちは近年サルボウガイの養殖に取り組んでいます。昔は中海にたくさんいたサルボウガイですが、昭和 60 年代から採れなくなりました。現在、養殖方法が開発されて中海で筏から吊り下げて養殖するようになりました。多い年で令和 3 年は 8 トンを生産できました。ただ、気候変動などで多く獲れる年と獲れない年があります。サルボウガイの養殖は中海の 13 地区でやっていいいますが、成績の良いところと悪いところがあります。よく山と海はつながっているとありますが、川が流れ込んでいるところは生育が良いです。それと、もう一つ中海ではウナギの放流をしています。

こういった経験から山のことも中海にとって大切ではと思っています。

(矢島)

どなたか、他にこんなことを考えていますとお話しいただきませんか。

(野口)

南部町の野口です。私の活動は、里山の生態系を守ってゆこうという活動をしています。その中で、前回話題となった自然共生サイトとして保全に取り組んでおり、その関係で中海のアダプトプログラムをしているところを申請してもらったのですが、生態系への理解が十分でない、清掃が生態系にどのように役立っているが説明

できていないという話で見送りにになりました。

時間がなかったので諦めましたが、自然再生協議会の申請であればうまくいくのではないのでしょうか。

また、中海再生プロジェクトの中海オープンウォータースイムに協力すれば、一般の方に環境問題の関心が広がるのではないのでしょうか。

また、国立公園や自然共生サイトでは、アドベンチャーツーリズムがブームとなっているので、そういった活動も考えていってはどうかでしょうか。

(矢島)

自然再生をした浅場でそのような活動をできるかとも思いますが、我々の活動の範囲を超えているのかなとは思っています。

くぼ地の調査をされている桑原さんの方で何かありますか。

(桑原)

浚渫くぼ地について長年やらせてもらっています。昨年度末まで中海の窪地内に大型の山形覆砂を作っています。その頂上部分の今年の調査で小さなウミウシがいました。今までイトミミズのような生物だけだったので自然再生としていい方向へ向かっていると思います。本当に将来的には中海でダイビングなどもできるのではないのでしょうか。

(矢島)

浅場の調査をされている倉田先生のほうからお話をお願いいたします。

(倉田)

島根大学の倉田です。海藻の利活用の話をさせていただいています。中海の生態系は環境(水質・地形)で決まっています。すぐに改善できるものとできないものがあります。さらに、汽水の特徴として、塩分躍層があるために貧酸素水塊ができやすいです。そうすると生き物が生息しにくくなります。

浅場はなかなかうまくいっていないので目標を定めてやっていけたらよいと思います。まず、中海全体の流動については境港水道の入り口の防波堤が長くなって、中海の流動性が悪化しています。中海の入り口の境水道では水深が 14mある場所でも生き物はあるが、中海の流動の悪い場所では水深が浅いところでも生き物がいません。流動を高めれば生物がいるようになると思います。また、浅場については湖岸に中海との分断があり、水域と陸域のエコトーンを回復しないとけません。

(宇都宮)

一ついいですか。米子高専の先生がファインバブルの実験をやっておられますが、その実験にもう少しお金を支援してバックアップすることはできないのでしょうか。

中海の質改善のために湖底の泥を攪拌して貧酸素水塊を減らす試験をできないのでしょうか。

中海のどれくらいの費用を使えば中海全体が改善できますか。再生協議会のファンドだけでは追いつかないと思います。

このような事業に国と県は予算をつけることは定められていませんか？

(國井)

残念ながらそれはありません。

(宇都宮)

国と県は再生する責務はあると思います。この再生協議会ができる前からそのような予算組があると思いますので、協議会でなくてもよいので、研究されている先生に支援できないでしょうか。

また、ファインバブルのような機械を使わなくても、湖底の泥を高圧洗浄器で攪拌すれば広いエリアで再生できるのではないのでしょうか。そうやって、再生協議会ができてから長い期間やっていたら良かったのではないかと思います。

(矢島)

国や県は肅々とやっておられると思います。鳥取県は助成金を出して研究支援をしているはずですが。

(安田(鳥取県))

昨年度まで実証実験をやっていただきました。米子湾でファインバブルの小規模な実験をしていただきました。なかなか効果の及ぶ範囲が狭く規模感として問題があり、中海全体に広げることは難しいということでした。より範囲の狭い小規模な米子水鳥公園の池で実験していただきました。これらの実験の結果、可能性はあるがコスト的な面として合わないので別の方法で進めてゆきたいと考えています。

(宇都宮)

いくらぐらいの予算でやられたのですか。

(安田)

年あたり 200 万から 300 万円で可能性を検討しました。

(宇都宮)

高専の試験を市販の高圧洗浄機でやれば安くできるのではないのでしょうか。

(藤井(米子高専))

今回の実験は湖底の水中の酸素を回復するためにやっているのであって、湖底の底質改善であれば、別にファインバブルで実施する必要はないです。

(宇都宮)

中海再生プロジェクトの前の会長さんが湖底をレイキでひっかいて(ドレッジして)いました。その時は、ごみの回収が目的だったが、泥と溶存酸素の水が反応していたのではないのでしょうか。

やり方を変えたらよいのではないですか。レイキでかき混ぜながら水を吹き付けてやれば酸化が可能だと思います。

(山本)

湖水に高濃度酸素水を入れることはあちらこちらでやっているのですが、他の地域の事例を勉強された方が良くと思います。一般的に数億円と考える必要があります。また、中海の汚れは難分解性の汚れなので、酸素を入れても分解しません。そんな簡単な話ではないです。

(匿名(新委員))

この再生協議会のことがまだわからないのですが、行政に向かって要望はされないんですか。

(國井)

2年前に協議会ではなく事務局をしている自然再生センターと中海漁協から要望させていただきました。

(坂口)

中海は干拓事業によって地形が変わってしまっています。残っている中海の干拓堤防を崩して橋を立てれば良いと思うのですが、それをしないと回復しないのではないですか。

(國井)

協議会は要望書を出すためのものではありません。県も参加されているので、協議会で勉強会を始めるのでその場で議論していったらよいと思います。

(柏木(中海漁協))

私はオゴノリングに関連して自然再生センターに係らせていただいています。今の発言に対して持っている情報を提供します。

中海の漁協では、大海崎堤防の開削を島根県に要望をだしています。なかなか大きな事業となると簡単には実現できません。中海の堤防開削は、住民の思いです。多くのほかの団体もあるので協議会で勉強会をしていただいたら、その場でいろいろと共有できるのではないのでしょうか。

(矢島)

環境省の立場から思いを語っていただければと思います。

(野沢(環境省松江管理官事務所))

環境省の野沢です。うちで管轄しているのが国立公園として島根半島と三瓶山、それ以外に国設鳥獣保護区に指定されています宍道湖・中海です。これは、両湖がラムサール条約に登録されており、そのために国際的約束として国が保護を担保するということで国設鳥獣保護区とされています。国(環境省)がお金を出すべきと思う話もあるのですが、枠組みがなく予算が出せないところがあります。先ほど自然共生サイトの申し込みをしていただいたという報告がありましたが、この認定を受けると環境省より取り組みに補助金の申請できたり、大手企業さんとのマッチングを探ったりすることができます。

また、この勉強会で課題を出し合おうということですが、他の取り組みでも共通することですが、「オゴノリング(海藻の利活用)」や「浚渫くぼ地の取り組み」について外部の方に知ってもらうことが大事です。私も知りませんでした。

何をするにも仲間づくりが大切でだと思います。そのためには、一般の人にもっと活動を知ってもらう必要があると思います。お金を出してもらうだけでなく、多くの人々に知ってもらうこと、そして仲間づくりがとても重要ではないでしょうか。

(神谷(米子水鳥公園))

水鳥公園では、多くのボランティアの方が協力して公園の自然環境を保全しています。そういった経験がお役に立てばと思っています。

(小谷 (十神交流センター))

ピーファス (PFAS) についてはどのようなお考えを持っておられますか。日本の法人が海外で刑事罰をうけたとあります。今後、安来に大きな工場が進出するそうですが気になっています。

(國井)

この協議会は、中海の自然再生をするという協議会です。この自然再生が目指すのは、「「よみがえれ、豊かで遊べるきれいな中海」を合言葉に、かつての中海の自然環境や資源循環の再構築」です。もちろんピーファス (PFAS) の問題もあると思いますが、この協議会ではピーファス (PFAS) について問題意識は持っていますが活動の主題から外れると思っています。

(矢島)

このあたりで勉強会の意見交換会を終わりにします。國井会長にお返しします。

(國井)

さて協議事項に入りますが、自然再生協議会の全体構想ができたのが17年前でした。九期に改訂する予定でしたが、作業が遅れてそのうちに自然再生の基本方針が昨年度見直される予定でしたのでそれを待って見直そうということになりました。あと、2年で第11期までに新しい全体構想を作って専門家会議に持ってゆけたらと思っています。

今までの協議会では、全体構想の改訂はそれほど大幅とはせず、「目標達成するための取り組み」のところで細かくやりたい取り組みを列記していましたが、実施していない事業については削除していこうと話合っています。

今後、ワーキンググループを作って協議会の場で新しい全体構想を作っていくらとよいと思っています。初めての全体構想を作るときもワーキンググループで毎月のようにミーティングをしてできました。新しいものも、そのような形でできたらよいと思っています。

(野口)

ネイチャーポジティブや、定量化といった課題があったと思います。生物多様性をどう測りどのように反映させていったらよいかお考えをお聞かせください。

(國井)

今のところ定量化についての話は出ておりません。今のものがあるのでそれをリニューアルする形としたいと思っています。昨年 of 専門家会議委員の視察で自然再生の全体構想の改訂にあたり「ステークホルダーだけでなく、地域全体で中海の理想像を作るのも一つの方法である」との指摘がありました。協議会の輪にとどまらず、活動が広がっていけば良いと思っています。

(野口)

スポットスポットの生態系の情報が欲しいです。多くの専門家が集まっているので協力を広げてゆけたら良いのではないのでしょうか。

(國井)

他の皆さん。ご意見はありませんでしょうか。今日は4時までということで進めてきました。もしなければ・・・

[その他]

(匿名(新委員))

事務局の方にお伺いします。今日のホームページに委員の名前を掲載するというのですがその目的を明示ください。もし載せるのであれば、私の名前を削除してください。

(國井)

実施計画の最後には、委員の名前を載せることとなっています。

(匿名(新委員))

今回第一回の協議会であるのに会則の説明がありませんでした。また、ピーファースについて意見があり論点が違うと言うことであったが、私は外れていないと思います。

(國井)

今までの議論として実施計画になる可能性は低いということでお話をさせていただきました。

名前の掲載については、自然再生協議会は自然再生推進法に基づく公式なもので名前の掲載が必要と考えています。ただ、委員の名前の掲載については、匿名にできるか問い合わせをいたします。

次回の開催は未定ですが、1年に2・3回の実施予定にしております。

(矢島)

勉強会の広報の方法については、事務局と相談の上、メールでご連絡いたします。

(國井)

それではこれにて第 1 回第十期の中海自然再生協議会を終了致します。皆様、お疲れ様でした。

資料 1.

[第 1 回第十期中海自然再生協議会 案内文]

自然再生推進法の基本方針が見直され、「気候変動による生態系の変化も考慮した目標を設定する」ことや、地域の民間団体や地域住民などが主体となり身近な自然を再生する「小さな自然再生」も新たに基本方針に盛り込まれました。昨年にはネイチャーポジティブ（自然再興）の実現に向けた「生物多様性増進活動促進法」も制定されています。

このような中、2007（平成 19）年 6 月 30 日に設立総会（第一期第 1 回）を開催した中海自然再生協議会は、今年度、第十期を迎えることとなりました。任期を終える 2 年後の 2027 年には協議会は 20 周年を迎えます。今期の協議会では、基本方針が見直されたことを受け、これまで協議を継続してきた全体構想の改訂を行い、さらに第 4 期の事業実施計画についても検討を開始することになります。節目となる第十期協議会の第 1 回協議会を下記の通り開催しますので、委員の皆様には万障繰り合わせのうえ、ご参集願います。

資料 2.

[國井自薦書]

(1) 氏名：國井秀伸

(2) 住所と連絡先：松江市一の谷町 14-15 familykunii@gmail.com

(3) 年齢：74 歳

(4) 中海自然再生協議会におけるこれまでの活動歴：2007（平成 19）年 6 月の第 1 期第 1 回中海自然再生協議会から専門委員として協議会に参加し、全体構想検討専門部会長として中海自然再生全体構想の策定に大きく関わった。2008 年 11 月に全体構想がまとめられた後、自然再生推進法に則った中海自然再生事業実施計画を策定するにあたり、第 2 期の協議会では協議会の専門家会議の議長として提案された実施計画の素案を絞り込む作業を担当し、第 3 期の協議会においては第 1 期の事業実施計画をまとめる役割を果たした。自然再生事業が本格的に開始された 2012 年 4 月からは協議会の事務局長としてアドバイザー委員会を主導し、協議会開催時の講演会の講師依頼を行なうなど、協議会の運営に寄与した。2017（平成 29）年からの第 6 期の協議会で自薦により会長に立候補し承認・選出され、その後第 9 期まで自薦により協議会会長を継続した。なお、第 6 期の協議会会長時には「中海の自然再生 10 年史」を、そして 2023（令和 5）年には第 3 期事業実施計画をとりまとめた。

(5) 今後の抱負：2007（平成 19）年 6 月に設立総会を開催した中海自然再生協議会は、今年度、第十期を迎えることとなり、任期を終える 2 年後の 2027 年には協議会は 20 周年を迎える。今期の協議会では、自然再生推進法の基本方針が見直されたことを受け、これまで協議を継続してきた全体構想の改訂を行い、第 4 期の事業実施計画についても検討を開始したい。

自薦者は、長年にわたり事業実施の中心であり協議会の事務局を務める NPO 法人自然再生センターの協議会担当理事として協議会との連携を図る立場にあることから、これまで同様センターとの互恵的な関係を構築し、中海の自然再生活動を活発化させたい。

2025（令和 7）年 7 月 5 日